

3R瓦版（4月号）

負けるな!
エコさんくん
作: フジコイトウ



© 2013 フジコ イトウ All Rights Reserved.

化学物質管理 ～前篇～

これまでのものづくりのビジネスの基本は、Q (Quality : 品質)、C (Cost:コスト)、D (Delivery : 納期) でした。最近では E (Ecology: 環境) が加わっています。環境が加わった理由は、環境問題が国際的な課題としてクローズアップされているためであり、地球温暖化抑制のための CO2 抑制、環境汚染や人への被害防止のための化学物質規制など広範囲になっています。

化学物質は多くの側面で、私たちの生活を豊かなものにしてきました。

古代ギリシャ・ローマでは、化学物質の使用(主に金属)で文明が発展してきました。しかし、化学物質(鉛)の使用で壊滅した都市国家もあるといわれています。

鉛を例に挙げますと、鉛は柔らかい金属であり、農具・武器・食器・鉛筆などに使用されました。古代ローマでも、貴族たちが鉛製のコップでワインを飲むのを好んだため、鉛中毒者が続出したといわれています。17世紀ごろには、ワインを甘くする目的で、鉛の白い酸化物が添加されていました。ワインを愛飲していたベートーベン♪の毛髪からは、後の調査によって通常の 100 倍近い量の鉛が検出されたことから、その晩年にほぼ耳が聴こえなくなってしまった原因として、現在は鉛中毒が有力視されています。

近年においては、化学品及び製品に含有している化学物質を適正に管理し、健康被害や環境影響の防止を図ることを目的とした法令整備が多く、諸外国で進められ、厳しい罰則も導入されています。

それでは、具体的に何をどのようにすればよいのでしょうか。

・・・次回へ続く

RepairFactory (有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254



株式会社立花エレクトック 品質・安全環境管理室

せりかわしげお
羅川 繁夫